

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	5月の価格動向				6月の見通し				
	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額(上段:関東、下段:近畿)(速報値)			主産地の概況	卸の見通し (関東、東京青果類)			
		上旬	中旬	下旬					
葉 茎 菜	キャベツ	67.20	125	99	90	・入荷見込量:14,770t(100) ・主産地:千葉(42)、茨城(26)、群馬(9)、東京(8)	関東の産地では生育は、一部産地で天候の影響を受けているが、出荷は前年並みの見込み。	今年は昨年同様平野物は量的に多いと予想される。高原物、東北物は昨年のような前進はなく、量的には前年並だが価格は平年を上回る見込み。	
		81.66	142	110	112	・入荷見込量:3,900t(106) ・主産地:茨城(25)、兵庫(21)、福岡(13)、愛知(11)、長野(8)、大分(7)			
	ねぎ	264.10	291	321	366	・入荷見込量:4,350t(100) ・主産地:茨城(62)、千葉(23)、輸入(7)	関東の産地では茨城県:生育は順調で肥大も良好。べと病などの発生が見られるが、作柄に影響は無いと考えられる。作柄は良好で平年並の出荷が見込まれる。		今年は昨年に比べ天候も良く順調で作業も進むため入荷は前年を上回るが、価格は平年より若干高い見込み。
		334.73	392	329	358	・入荷見込量:250t(97) ・主産地:徳島(24)、香川(22)、大阪(19)、三重(10)、高知(8)、奈良(8)			
	はくさい	67.05	85	63	57	・入荷見込量:5,170t(98) ・主産地:長野(53)、茨城(29)、群馬(16)	関東の産地では生育は順調で作柄は並。出荷量は前年並みの見込み。		茨城の作付の減少と切り上がり早く、5月の価格はしっかりした。6月は品質の良い長野が価格を引っ張り入荷は前年をやや下回り、価格はほぼ平年並かやや高い見込み。
		82.06	108	83	88	・入荷見込量:2,700t(104) ・主産地:長野(71)、茨城(18)			
	ほうれんそう	376.10	456	383	431	・入荷見込量:1,620t(100) ・主産地:群馬(24)、茨城(20)、岩手(20)、栃木(16)、埼玉(8)	関東の産地では平坦地もの(ハウス)から、中山間地もの(露地・ハウス)への替わり時期となる。ともに生育は順調で作柄は並。出荷量は、平坦地の前進化で少なかった前年を上回る見込み。		今年は東北がゆっくりペースで少なめと予想される。関東は天候に左右されるが4、5月の好天で播種は順調に終わっている。そのため入荷は前年並、価格は平年を下回る見込み。
		396.89	496	403	505	・入荷見込量:480t(101) ・主産地:岐阜(74)、北海道(10)、奈良(9)			
	レタス	164.45	148	144	111	・入荷見込量:7,150t(100) ・主産地:長野(65)、群馬(23)	関東の産地では4月下旬の低温から、生育はやや遅れ傾向。6月の気象予報から、順調な生育が見込まれる。出荷量は前年並みの見込み。		今年の高原物は5月に入って低温が続き、例年のような大山のない入荷が続く見込み。入荷は前年並、価格は平年を上回る見込み。
		173.68	158	158	116	・入荷見込量:1,600t(115) ・主産地:長野(91)			
	たまねぎ	71.02	89	89	92	・入荷見込量:14,400t(95) ・主産地:佐賀(56)、兵庫(13)、愛知(3)、輸入(3)	九州の産地では6月には中生と晩生の出荷になるが年内に定植が終わらずばらついた影響で5月下旬から6月も量的に多い。前年のように大玉でないが収量はある見込み。		香川の作付面積が減少して出荷量の大幅な減少が懸念される一方、他産地も前年同様から微減の見込み。流通量が少ない中、新玉ねぎの需要は高く良好な販売状況が続く。入荷は前年を下回り、価格はここ数年続いた価格低迷からは脱却できそう。
			86	88	93	・入荷見込量:3,100t(91) ・主産地:兵庫(69)、佐賀(13)、北海道(8)			
果 菜	きゅうり	189.84	182	169	171	・入荷見込量:6,900t(100) ・主産地:埼玉(29)、福島(15)、群馬(14)、茨城(10)、千葉(10)、栃木(7)	関東の産地では先月は生育がやや遅れ、樹勢が弱い傾向にあったが、4月以降は好天に恵まれたことから現在は回復している。出荷は概ね順調の見込み。	4、5月の好天で木の状態も良く、量的には前年を上回り、価格は平年より高い見込み。	
		177.22	172	137	160	・入荷見込量:1,750t(111) ・主産地:宮崎(22)、愛媛(14)、福島(13)、高知(13)、香川(10)、徳島(8)			
	トマト	209.59	367	346	282	・入荷見込量:9,150t(100) ・主産地:栃木(20)、千葉(16)、茨城(15)、愛知(11)、熊本(8)、群馬(6)	関東の産地では連休明け以降、草勢の回復が遅れ、引き続き小玉果や空洞果の傾向となっている。生育は遅れ気味、収穫量の減少が予想される。	今年は愛知は少ないが関東が充実して多く、東北も月末頃に増えてきて、入荷は前年を上回り、価格も平年を上回る見込み。	
		228.53	352	343	289	・入荷見込量:1,900t(100) ・主産地:熊本(20)、愛知(17)、石川(11)、北海道(11)、福岡(9)、奈良(7)			
	なす	297.07	313	276	278	・入荷見込量:4,330t(93) ・主産地:高知(35)、福岡(19)、群馬(17)、栃木(7)、茨城(7)、埼玉(4)	関東の産地では半促成栽培では、生育はほぼ平年並み。トンネル栽培では、4月から、夏秋栽培は、概ね順調な生育となっている。	関東産が順調で多く量的には前年を上回ると予想している。九州産については価格が高ければ後ろに引っ張ると思われる。入荷は前年を上回るが、価格は平年より高く、価格は品質の安定する関東産が中心になって後半上向く見込み。	
		285.27	309	282	264	・入荷見込量:1,250t(106) ・主産地:大阪(23)、高知(16)、岡山(14)、福岡(12)、奈良(11)、熊本(7)、徳島(6)			
	ピーマン	308.36	345	304	249	・入荷見込量:2,360t(103) ・主産地:茨城(88)	関東の産地では品質・肥大ともに良好であり、病害虫による被害も少ないため、平年並みの出荷が見込まれる。若干ではあるが、半促成の作型で面積が増加している。	昨年は作柄が悪く過去数年では最高値となった。今年は4、5月の好天で順調で多く、入荷は前年を上回り、価格は前年を下回るが平年比高いと予想。	
		283.10	334	251	241	・入荷見込量:360t(101) ・主産地:宮崎(35)、高知(30)、和歌山(17)、大分(7)			
	根 菜	だいこん	91.15	83	87	86	・入荷見込量:8,200t(97) ・主産地:青森(54)、千葉(25)、北海道(10)	東北の産地では、作付けは、前年並みかやや減少、4月の降雪の影響はみられるものの出荷は6月から始まり前年並みの見込み。	今年は千葉が少なめで、さらに東北・北海道が遅れており、価格は上旬まで高値傾向と予想される。入荷は前年を下回り、価格は前年を上回る見込み。
			104.71	81	81	72	・入荷見込量:2,600t(99) ・主産地:青森(36)、北海道(27)、茨城(7)、岡山(6)、長崎(6)		
にんじん		156.99	146	130	104	・入荷見込量:6,390t(102) ・主産地:千葉(77)、埼玉(9)、輸入(4)	関東の産地では、生育は順調で、やや遅れる産地も見られるが、6月が出荷のピーク。品質は、Lサイズ中心。	昨年は、5、6月に天候が悪く主力の千葉が甘藷の定植を優先させる等、人参の作業を後回しにしたためここ数年で最高値となった。今年の関東産は順調で早く、入荷は前年を上回り、価格は平年を下回る見込み。	
		156.17	130	110	74	・入荷見込量:2,200t(100) ・主産地:長崎(30)、和歌山(29)、徳島(14)、兵庫(10)、宮崎(6)			

種類	5月の価格動向					6月の見通し	
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定期野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額(上段:関東、下段:近畿)(速報値)	上旬	中旬	下旬	主産地の概況	卸の見通し(関東、東京青果株)
いも	—	—	298	302	309	—	—
	—	—	403	355	344	—	—
	ばれいしょ	131.80	131	134	144	・入荷見込量:7,370t(100) ・主産地:長崎(41)、千葉(18)、静岡(17)、茨城(13)	九州の産地では出荷のピークであるはずが、前進出荷もあり実際は少ない状況が続いている。全体でも収量が少ない見込み。
			145	142	145	・入荷見込量:3,800t(101) ・主産地:長崎(67)、北海道(16)、静岡(8)	5月中旬から出荷開始となった静岡の男爵は日々増量し、6月には本格出荷となる。九州産のばれいしょはまだ残量は充分にあるが、生育が前進しているため平年よりは少な目。全体的な流通量も不作だった前年並みもしくは微増程度で、5月同様引き合いが強い状況は続く。入荷は前年同、価格もほぼ前年並み。

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。  
2) 旬別平均販売価額の青は保証基準額を上回るもの。赤色は下回るもの(消費税は除く)。  
3) 単位は円/kg

1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。  
2) 主産地は東京都及び大阪市中央卸売市場へ出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

1) 「卸の見通し」の内容は、東京青果株式会社「野菜展望」をもとに機構が編集したものである。  
2) その後の気象条件の変化等により変動があり得る。

## 2 野菜の需要動向

家計調査でみると、4月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4,783g、対前年比97%となっているが、購入金額については、1,805円、対前年比101%となっている。  
また、小売物価統計によると、5月のキャベツの小売価格は過去5年平均比114%、レタスは同104%となっている。

### 1 生鮮野菜の購入量及び金額

年	平成21年		平成20年		過去5年平均	
	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)	購入量(g)	金額(円)
1月	4,276	1,548	4,341	1,479	3,981	1,524
2月	4,536	1,529	4,471	1,582	4,218	1,566
3月	4,799	1,685	4,763	1,735	4,527	1,692
4月	4,783	1,805	4,896	1,786	4,667	1,775
5月			5,020	1,876	5,068	1,876
6月			5,026	1,878	4,955	1,860
7月			4,446	1,673	4,391	1,681
8月			4,392	1,619	4,257	1,648
9月			4,934	1,763	4,678	1,730
10月			5,437	1,829	5,110	1,814
11月			5,036	1,601	4,832	1,576
12月			5,145	1,869	5,041	1,779

資料:総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁家世帯を除く)」

### 2 主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移(単位:円/kg)

月	キャベツ		レタス	
	平成21年	過去5年平均	平成21年	過去5年平均
1月	197	199	629	612
2月	179	192	449	535
3月	176	194	452	484
4月	233	225	460	437
5月	202	177	390	372
6月		161		360
7月		158		331
8月		157		416
9月		146		483
10月		166		539
11月		175		492
12月		171		512

注1:過去5カ年は平成16~20年  
注2:5月の値は、5月中旬の速報値

資料:総務省統計局「小売物価統計調査報告」

## 3 野菜の輸入動向

中国からの野菜の輸入量は、平成19年には141万トンであったものが、20年には、87%の114万トンとなっており、さらに21年1~4月では対前年同期比93%の74.1万トンとなっている。  
5月については、植物防疫検査統計によると、たまねぎについては前年同期比52%、にんじん同88%、ねぎ同37%となっている。

### 野菜等の輸入数量の推移について

区分	平成18年	平成19年	平成20年	平成20年		平成21年	
				前年比	1~4月	前年比	1~4月
生鮮野菜	956,167	719,467	597,171	75	248,836	236,333	95
加工野菜	1,805,327	1,786,948	1,660,662	98	544,706	505,294	93
野菜輸入量合計	2,787,104	2,506,415	2,058,401	90	793,542	741,628	93
中国産野菜合計	1,621,939	1,413,583	1,147,126	87	369,771	338,490	92
中国産シェア	58	56	56		47	46	

資料:財務省「貿易統計」

### 主な野菜の輸入動向

品目	輸入先	(単位:トン、%)		
		(A)2008.5	(B)2009.5	(B)/(A)
たまねぎ合計		9,497	5,579	58.7
	中国	8,207	4,283	52.2
	米国	115	178	154.8
にんじん合計		4,994	1,856	37.2
	中国	1,218	1,079	88.6
ねぎ合計		2,766	1,043	37.7
	中国	2,767	1,042	37.7

資料:農林水産省「植物防疫検査統計」(2009.5)は5月第5週現在で速報値である。

## 4 トピック

「野菜契約取引等推進事業」に係る事業実施主体候補者の公募(第2期及び第3期)等

1 契約取引等推進事業の追加公募について  
野菜原価提示型販売・取引手法導入事業、加工・業務用野菜需要対応産地育成事業につきましては追加公募を実施します。  
内容は右欄参照し詳細は、機構ホームページを参照  
[http://alic.lin.go.jp/y-keiyaku/yagyomu03\\_000009.html](http://alic.lin.go.jp/y-keiyaku/yagyomu03_000009.html)

2 「加工・業務用野菜産地と実需者との交流会」について  
今年度は「ニッポンの食を担う国産野菜」をテーマに国産野菜を扱う団体をはじめ農業生産法人、種苗会社など60ブースが出展いたします。飲食・流通関係のバイヤーの皆様におかれましては、ぜひ、この機会をご活用下さい。  
なお、本交流会は商談等を目的にしております。  
詳細はホームページを参照  
[http://alic.lin.go.jp/y-keiyaku/yagyomu03\\_000013.html](http://alic.lin.go.jp/y-keiyaku/yagyomu03_000013.html)

### 1 公募事業内容

(1) 野菜原価提示型販売・取引手法導入実証事業  
生産・流通コストの変動要因の調査・分析を行い、それを基に取引価格を設定できるような契約取引及び量販店における販売手法の実証とその普及のための理解醸成活動に対し定額助成します。

(2) 加工・業務用野菜需要対応産地育成事業  
加工・業務用需要に対応した低コストで合理的な野菜の生産・流通体制を構築するため、集出荷施設の再配置やモーダルシフトの推進等に係る検討・実証等を行い、生産・流通システムの改革方策を策定する取組に対し定額助成します。

### 2 公募期間

・第2期(夏野菜、秋冬野菜向け)  
平成21年6月5日(金)から平成21年7月15日(水)  
・第3期(秋冬野菜向け)  
平成21年8月3日(月)から平成21年9月30日(水)

### 3 事業実施主体

事業実施主体は、農業協同組合、農業生産法人等の生産出荷団体並びに生産出荷団体と契約取引を行う卸売業者、食品製造業者及び食品販売業者

### 4 補助金の額等

(1) 事業  
予算額4.7億円:1地区当たり1,000万円を上限  
(2) 事業  
予算額4.3億円:1地区1,000万円を上限

入場  
無料

## 加工・業務用野菜産地と 実需者との交流会

主催:(独)農畜産業振興機構、農林水産省

平成21年度  
第1回  
東京会場

加工・業務用野菜の産地との商談会として毎年、開催しております交流会を本年も開催いたします。  
今年度は「ニッポンの食を担う国産野菜」をテーマに国産野菜を扱う団体をはじめ農業生産法人、種苗会社など60ブースが出展いたします。  
飲食・流通関係のバイヤーの皆様におかれましては、ぜひ、この機会をご活用下さい。  
なお、本交流会は商談等を目的にしております。ご来場の際は事前登録をお願いします。(裏面の登録フォームにご記入の上FAXにてご返信下さい。)

**【開催日時】**  
2009年7月2日(木)  
10:00~17:00

**【会場】**  
東京都立産業貿易センター  
浜松町館 5階展示場

**【入場料】**  
無料

**【タイムスケジュール】**

9:45~10:00 オープニングセレモニー  
(主催者あいさつ)  
農林水産省生産局  
(独)農畜産業振興機構 理事長 木下 寛之

10:00~ 来場受付

10:00~17:00 展示・商談会

10:30~11:15 <セミナー>  
宮城大学 准教授 堀田 宗徳氏

11:20~14:10 出展者によるショートプレゼン  
ページのご紹介

14:30~15:00 <セミナー>  
穀類・野菜料理研究家  
王 理恵氏

※セミナー会場は先着とさせていただきます。  
※当日、やむを得ず予定を変更させていただきますこと  
がございます。

